

Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

2012
平成24年

5.15

届けたいな
感謝の気持ち!

目次

「しみんの広場」

2

東日本大震災の被災地調査結果

地域が守る
安心して暮らせる安全なまち

地域の話

市民活動を応援するページ

スクールレポート
学校生活の一コマを紹介

6

たはらしティニュース

7

連載コーナー

8

おしらせ

10

歴史探訪クラブ

12



しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

- 東日本大震災の被災地調査結果……………2ページ
- 自主防災会活動事例(大草 泉校区)……………3ページ
- 地域の話題(伊良湖校区)……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ

東日本大震災の被災地調査結果

4月23日(月)～25日(水)、「東三河広域協議会

被災地調査派遣チーム」による東日本大震災の被災地現地調査が行われ、田原市からは、副市長と市民環境部長が参加しました。市民の皆さんに、調査概要などをお知らせします。

《調査概要》

被災地調査派遣チームは、宮城県仙台市、石巻市、南三陸町、岩手県陸前高田市を訪問し、次の点について、被災自治体の聞き取り調査や、現地の被災状況の視察を行いました。

- 調査項目
- 災害からの復興状況
- 災害廃棄物の処理状況
- 被災自治体としての要望など



●仙台市



●石巻市

《調査報告抜粋》

- ◆ 被災自治体業務を、全般にわたり物的・人的に支援し続けることが何より必要である。
- ◆ 原則として、がれきは発生地域での早期処理を計画化し、それを促進・支援することが望ましい。
- ◆ いずれの自治体も、がれきは自区内処理を最優先に、自らの地域で解決できるものは自らで解決するとの強い決意と自負を持ち取り組んでいる。
- ◆ 放射能汚染に係る基準を設定すべき事態が生じた場合は、改めて調査と検証が必要である。

この調査結果を踏まえ、東三河地域の8市町村で構成する東三河広域協議会として、今後の被災地の支援について検討・実施してまいります。調査報告は、市ホームページでご覧になれます。今後、市ホームページなどで随時お知らせしていきます。

政策推進課 ☎23局35507

<http://www.city.tahara.aichi.jp/>

市民発!

「地域の宝(旧小塩津保育園の桜)」

元小塩津自治会長 古川美栄さん

旧小塩津保育園にある桜の老木が、今年も満開となりました。

この桜は、昭和29年1月、地元の古川勇氏らにより、伊良湖岬地区で最も早く開園した小塩津保育園の園庭に植えられたものです。昭和42～46年度まで同保育園の園長を務めた古川勇氏が、このことを詠んだ歌が残されています。「苗を買ひ此の手で植へし桜木の幾千代までも咲いて栄へよ」。この歌からは、同氏がこの桜を通して小塩津地区のさらなる繁栄を願う思いが伝わってきます。かつての保育園の面影をしのぶものは、今ではこの桜の木だけですが、道路の拡幅により、一部を残して切られることが予定されています。

長年にわたり地域の人々に親しまれてきた桜の木。その満開の美しい桜を、しっかりと目に焼き付けました。



地域が守る 安心して暮らせる安全なまち

自主防災会活動【事例紹介①】

大草校区

【人口・世帯】…日24年3月末現在
1320人・370世帯

【概要】

市の南東部に位置する農耕地帯で、南は太平洋に面しています。2つの自治会が1つの自主防災会として活動していますが、訓練内容や参加者の固定化が見られません。

【取り組みテーマ】

「実践的で楽しくできる防災活動！
気軽に参加できる防災活動！」

【主な取り組み内容】

- 1 防災マップの作成
- 2 家具固定講習会
- 3 木造住宅無料耐震診断説明会
- 4 非常用持出袋の括購入など

【取り組み成果】

消火訓練や土のう作りなど、今までできなかった活動を行うことができ、校区住民への意識啓発ができました。

【今後の目標】

気軽に参加できる訓練や講習会を開催していくとともに、引き続き木造住宅耐震診断の普及・啓発を行い、防災意識の高揚を図ります。



● 消火訓練 (避難訓練)



● 家具固定講習会



● 土のう作り (避難訓練)

自主防災会活動【事例紹介②】

泉校区

【人口・世帯】…日24年3月末現在
3944人・1221世帯

【概要】

市の北中部に位置し、北に三河湾を望み、三方に緑豊かな山々が連なっています。低地が多く、8つの自主防災会では、津波からの避難が最重要課題となっています。

【取り組みテーマ】

「津波避難の徹底！課題に対する効果的な防災対策！」

【主な取り組み内容】

- 1 津波避難マップの作成
- 2 津波避難訓練
- 3 防災台帳・防災マップの更新
- 4 住宅用火災警報器の設置
- 5 家具固定講習会など

【取り組み成果】

地区ごとに津波の一時避難場所を決め、避難訓練を実施することで、校区住民への避難の周知徹底ができました。

【今後の目標】

津波避難訓練を今後も継続的に行うとともに、さまざまな課題に対して効果的な対策を、住民が一丸となって行います。



● 津波避難マップ作成



● 避難訓練



● 家具固定講習会

田原市では、市内すべての地区に自主防災会が組織され、それぞれの地域特性に合った防災活動に取り組んでいます。ここでは、平成23年度の「自主防災活動重点支援地区」として、大草校区と泉校区が取り組んだ活動をご紹介します。▼防災対策課 ☎23局3548



▲無病息災を祈って(ごせんだらまつり)



▲多くの参拝客が訪れる伊良湖神社(御衣祭)

地域の話題

伊良湖校区

伝統と美しい自然を次世代へ

伝統あるお祭りの伝承と

美しい自然を守る環境保全の取り組みについて

伊良湖校区コミュニティ協議会からお便りが届きました。



伊

良湖校区は、渥美半島の先端に位置し、風光明媚な自然環境と名所旧跡などの歴史や文化が豊かな、市内で最も小さな校区です。

伝統あるお祭り



桜の花が残る4月中旬、毎年、伊良湖神社では「御衣祭」が行われます。参道の両脇にはたくさんさんの露店が並び、子どもからお年寄りまで多くの参拝者や観光客が訪れます。参道を歩くと懐かしい人に出会い、声をかけ合う風景も多く見られます。御衣祭は、三河大野で採れた蚕糸を織って、伊勢神宮におんぞ料として献じたのが始まりといわれています。伊良湖神社は女性の神様で、神事が行われる神殿の中には男性しか



入れません。この日、地区の女性たちは習わしに従って、はさみや針を手につけて、漁民たちは船の安全を祈る守護神の「船札」を受けます。以前は、旧暦の4月14日に行われていましたが、現在は4月の第3日曜日に行われています。

ごせんだらまつり

大晦日から元旦にかけて行われる火祭り「ごせんだらまつり」。飛び散る火の粉を浴びて身を清め、燃え上がる炎を飛び越える男たちの迫力に誰もが息をのみます。その勇者たちと一緒に、豊漁や無病息災など、新しい年の平安を祈ります。伊良湖神社の伝統あるお祭りに、ぜひ皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか。

ふるさとに緑を！

渥美半島の先端に位置する恋路ヶ浜は、4つの日本の百選に選ばれています。その中のひとつに「白砂青松」がありますが、近年は松くい虫の被害により松が減少しています。白砂青松を維持しようと、平成19年度から毎年2月ごろに、児童と校区コミュニティ協議会のメンバーが中心となり、伊良湖岬周辺で松くい虫に強い抵抗性松の苗木を植樹しています。毎年300本ほどを植樹し、今では約2800本ほどの松が力強く育っています。



▲協力して植樹する児童

快適で活力ある校区に

伊良湖校区の将来像「自然環境と地域資源を活かした笑顔いっぱい快適な活力ある伊良湖校区」を目指し、これからも地域文化の伝承と自然環境の保全を進めていきます。そしてさまざまなイベントを通して、地域の人と人のつながりを笑顔で結び取り組みを行っていきます。



市民活動を応援するページ.....



市民活動をサポートする

市民協働まちづくり事業補助金

興味のある方 ぜひご参加ください！

「市民協働まちづくり事業補助金」は、市民活動団体が提案する公益性の高い事業に対し、経費の一部を田原市が補助する制度です。本年度は、市内の3団体から、里山保全や観光の活性化、図書館創立10周年を記念した事業の提案がありました。

4月28日(土)には、これら提案事業の採択を行う公開審査会を開催しました。各団体の思いが込められたプレゼンテーションに対して、「田原市市民協働まちづくり会議」から選出された5名の審査員が、事業の「公益性」「先駆性」などを基準に審査を行いました。

また、当日は3つの提案事業に関係する市の担当職員も出席し、市民活動団体が提案する柔軟な発想を、市の施策推進の参考にしようと、熱心に耳を傾けていました。

審査の結果、今年度採択された事業は以下のとおりです。今後、各団体の事業がスタートします。市民の皆さんが参加できるものもありますので、興味のある方はぜひご参加ください。



▲プレゼンテーション風景(田原文化会館)

◎補助金採択団体一覧

No.	団体名	事業名	補助要望額
1	里山保全 <small>やまゆり</small> 山遊里	みんなで楽しみ未来につなぐ里山保全活動	87,000円
2	図書館フレンズ田原	<small>やぶうち</small> 数内正幸原画展・「渡り鳥さびん」	200,000円
3	<small>ハッピーダブ</small> Happy Dub	伊良湖音楽とマーケットの祭典	85,000円

◎事業内容の紹介

里山保全 山遊里	図書館フレンズ田原	Happy Dub
<p>楽しみながら里山保全活動を行うボランティアグループです</p> <p>加治区自治会と連携し、身近な里山を健全な森林として再生します。</p> <p>そして、多くの市民が利用する衣笠・滝頭ハイキングコースの整備、自然学習、森林資源活用など、市民が里山に親しめる環境づくり・保全活動を続けます。</p> 	<p>利用者の立場で行政と協働し、より良い図書館づくりを行います</p> <p>動物や鳥の図鑑の画家として渥美半島の自然の良き理解者であった数内正幸氏。今回は中央図書館開館10周年を祝う記念事業の一つとして田原市図書館と連携し、「渡り鳥と渥美半島」をテーマに、田原市の自然を再考する機会を提供します。</p>  <p>▶講演会：8月予定 ▶原画展：未定</p>	<p>音楽と自然と触れ合いながら伊良湖の地域活性化に貢献します</p> <p>大自然の中で音楽を楽しみながら、フリーマーケットで地元の特産品などを販売し、観光客と地元住民との交流の場を提供します。継続的に行うことで、地域の活性化を図っていきます。</p> 

田原市民活動支援センター

 <http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/>

■ NPOや市民活動に関する相談を受け付けています。(毎週 木・金・土 14:00～19:00 田原文化会館フリースペース)

■ このページおよび市民活動支援センターホームページに掲載する市民活動情報を募集しています。

◎お問い合わせ：☎22局 1111 (内線812) ※ 開設時間のみ ☎23局 0180 ✉shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp

今回は、小学校での浄化活動で魅力ある学校づくりに取り組む様子と、短縄・長縄大会の様子をご紹介します。

●学校教育課 ☎ 23局3679

赤羽根小学校「環境教育」 太陽光を利用して水質浄化

赤羽根小学校では、平成23年10月に、再生可能エネルギーである太陽光を利用して水質を浄化する装置を、新たに観察池へ設置しました。この装置は、太陽光で発電したエネルギーを利用して水をくみ上げ、水車を回して水をきれいにしています。

観察池は、赤羽根小学校同窓会の支援を得て昭和52年に設置しました。池の形は、愛知県を表し、コイやフナをはじめさまざまな生物が生息しています。

昨年度から、低学年の生活科や中高学年の理科などで観察池の活用を始めました。特に再生可能エネルギー利用の学習では、実際の装置を見ながら、効果的な省エネ学習ができると期待しています。



●池の生物を観察する1年生たち

※再生可能エネルギーとは、太陽光や風力、水力など、何度でも繰り返し使うことができるエネルギーのことです



●どの子も真剣に新記録を目指しています



●みんなでタイミングを合わせて跳びます

堀切小学校「短縄・長縄大会」 寒さに負けず目指せ新記録！

堀切小学校では、毎年の恒例行事として、短縄大会と長縄大会を行っています。

2月8日には、短縄大会を開きました。前跳び・後ろ跳び(全学年)、あや跳び(低学年)、二重跳び(中学年以上)のそれぞれの種目で、校内新記録や自己新記録に挑戦しました。制限時間は3分間。低学年には高学年が付いて、数を数えます。「がんばって！」「まだ時間があるよ！」と、温かい声援が飛び交っていました。高学年のような跳び方ができることが、低学年の子どもたちの目標です。

また、2月23日には、たてわり班対抗で長縄大会を開きました。全校児童が、この日のために毎日、昼放課に練習しました。大会では、八の字跳びで3分間を2回跳び、その合計で競いました。どの班も、今までの練習の成果を発揮し、自分たちの記録を更新する元気な堀切っ子、の姿が見られました。



▲国道259号(道の駅・田原めっくんはうす周辺)でキャンペーンを実施

4月6日(金)

交通安全は
みんなの願い

春の交通安全街頭キャンペーンが行われ、田原市交通安全推進協議会をはじめ市内の交通安全団体など約60名が参加しました。新年度を迎え、慣れない道を通行する方も多いこの時期。参加者はドライバーにチラシを配り、交通安全を呼びかけました。



▲ハンギングバスケットを作る参加者たち(フラワー教室)

4月15日(日)

緑や花であふれる
わたしたちの街

市民緑花まつりがはなのき広場と田原文化会館で開催されました。苗木、花苗の無料配布やフラワー教室などが行われ、約7000名の来場者でにぎわいました。また、フラワー作品コンテストでは、来場者の投票で井上美穂子さん(六連町)が最優秀賞に選ばれました。



▲教室では自動体外式除細動器(AED)の使い方も学びました

4月15日(日)

災害時に慌てず
行動しよう

赤十字親子防災教室がはなのき広場で行われ、市内外から親子など約150名が参加しました。いざという時に役立つ技術身に付けようという時に役立つ技術や園児や児童は、真剣な表情で心肺蘇生法や炊き出し体験に取り組んでいました。

広がる未来へ

たはらエコ・ガーデンシティ構想

●緑のカーテンで涼しい夏を

昨年の夏に引き続き、今年の夏も電力不足が心配されています。夏の暑さ対策の一つとして注目されているのが、緑のカーテンです。緑のカーテンは、窓から入り込む日差しをさえぎり、壁や地面の表面温度の上昇を抑える効果があります。この時期から準備を始めましょう。

☑植物の種類

ツタ性の植物であれば、緑のカーテンとして使えます。その中でも、ゴーヤやアサガオなどがよく使われています。



☑用意するもの

- 苗
- 土・肥料
- プランター
- ネット・支柱



☑作り方

- 1 園芸土や腐葉土を混ぜて土を作ります。土の種類については、園芸店などに相談してみましょう。
- 2 苗を植えます。ゴーヤは5月から6月、アサガオは6月から7月が適期です。
- 3 ネットを張り、つるを誘引します。
- 4 7月から9月に花が咲き、緑のカーテンが楽しめます。



今年も、省エネルギー対策として、市内保育園や幼稚園、小中学校、市民館、その他公共施設などで、緑のカーテン事業を実施します。ご家庭でも、緑のカーテンを育てて、地球にやさしく快適な暮らしを始めてみてはいかがでしょうか。

●たはらエコチャレンジ宣言登録者数
個人1786人、事業所80か所(4月末現在)

▼エコエネ推進課

☎23局7401 FAX23局0180

環境戦隊たはらエコレンジャー



皆さんは、家電リサイクル法をご存知ですか。今回は、家電リサイクル法にあたる4品目の処分方法についてお知らせします。



●家電リサイクル法とは

家電製品のリサイクル(再商品化)をメーカーに義務づけ、廃家電製品の再商品化による環境保全を目的として、平成13年4月に施行された法律の通称です。

●対象となる品目

- * テレビ
- * (ブラウン管、液晶、プラズマ)
- * 冷蔵庫・冷凍庫
- * エアコン
- * 洗濯機・衣類乾燥機



●対象となる品目の処分方法

◆家電販売店に処分を依頼

購入先、または過去にその製品を購入した販売店へ引き取りを依頼してください。リサイクル料金と運搬費用が必要となります。

※販売店が不明の場合は、市内家電販売店で引き取りを行っています。詳しくは、各販売店にご相談ください。

◆指定引取場所へ運搬

郵便局で家電リサイクル券を購入し、指定引取場所へ搬入してください。

※指定引取場所は、各家庭に配布した「ごみの分け方・出し方」の11頁、または市ホームページをご覧ください。

☎<http://www.city.tahara.aichi.jp/>

家電4品目は、市では引き取りを行っています。ごみステーションには絶対に出さないでください。家電製品の不法投棄は、近隣への迷惑になるだけでなく、しみ出した重金属などの有害物質による土壌汚染など、環境にも大きな影響を与えます。不法投棄は、法律で固く禁じられ、違反した場合には重い罰則がかかります。

▼清掃管理課

☎23局3538 FAX23局0180



交流通信

国内外との交流・多文化共生

津具高原ペンション グリーンメッセージ

姉妹都市、設楽町との交流拠点施設「グリーンメッセージ」をご紹介します。



●グリーンメッセージ*ってどんなところ？

愛知県と長野県の県境、標高約900mにある道の駅つぐ高原グリーンパークに隣接しています。姉妹都市、設楽町に田原市が建設した交流拠点施設です。

春は、雪溶けた山々から新緑が芽吹き始め、夏は天然のクーラーで自然の涼！秋は紅葉が目鮮やかで、冬は天体観測やペンション裏で行える雪ソリが人気です。

*グリーンメッセージは「田原市ふれあいの館」の愛称

●田原市民にお得な割引制度

田原市の公共施設ですので、市民の皆さん(市内

◎洋室1泊2日(田原市民料金)

区分	2食付き	食事なし
高校生以上	5,700円	1,700円
小・中学生	4,100円	1,150円

在住・在勤・在学の方)には、お得な割引制度があります。

詳しくは政策推進課にお問い合わせください。

●つぐ高原グリーンパークには遊びがいっぱい

まさにアウトドアの楽園。パーク内には、バターゴルフ場(田原市の施設)やオートキャンプ場、バンガローなどが整備されています。

中でも夏休み期間中のニジマスのつかみ取りは大人気。

捕らえたニジマスは、場内の専用焼き

場で食べられます。(要予約)



●お問い合わせ

- ・田原市役所 政策推進課 ☎23局3507
- ・グリーンメッセージ(田原市ふれあいの館)
☎(0536)83局2343 <http://juns-kitchen.com/>
- ・道の駅つぐ高原グリーンパーク ☎(0536)83局2344

マグニチュードが0.1増えるとエネルギーは約1.4倍、1増えると約32倍、2増えると約1000倍になります。

◆震度とは
その地点における揺れの大きさを表すもので、10段階に分けられています。(震度0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7)

◆マグニチュード(M)とは
地震のエネルギーの大きさを表すものです。

みんなでは、けんちゃんです。地震が起こるとニュースや新聞などでは、「震度」と「マグニチュード」という言葉を使って報道します。どちらも地震の大きさを表すものですが、意味は異なります。皆さんはこの違いをご存じですか。

みんなできり組む防災・減災 けんちゃんの 防災知恵袋 震度とマグニチュード

13

また、地盤などによっても震度は異なりますので、正しい情報を入手するようにしましょう。

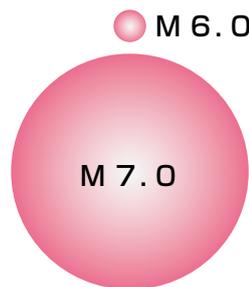
▼防災対策課 ☎23局3548

◆震度とマグニチュードの違い
一般的にマグニチュードが大きくても震源が遠い場合や深い場合は震度が小さく、反対にマグニチュードが小さくても、震源が近い場合や浅い場合は震度が大きくなります。

●大きな揺れ(震度大)

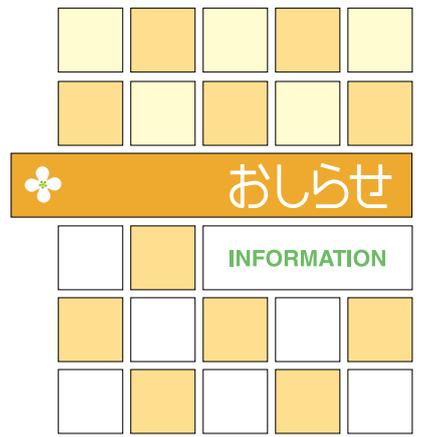


※マグニチュードの大きさにかかわらず、震源からの距離が近いと震度が大きくなる場合があります。



※マグニチュード7.0の地震は、マグニチュード6.0の地震の約32倍のエネルギーを持つ





募集

WANTED

田原市臨時職員 赤羽根文化会館業務

▼募集人員 1名 ▼採用期間 8月1日～平成25年1月31日 ▼対象
 ※パソコンが扱える方で、土・日曜日・祝日に勤務可能な方 ▼勤務場所 赤羽根文化会館 ▼業務内容 受付・事務補助、施設管理補助など
 ▼勤務形態 週4日以内（月曜日を除く／祝日の場合は翌平日）午前8時30分～午後5時15分（一日勤務の場合）／午前8時30分～正午（午前勤務の場合） ▼賃金 時給870円

▼選考方法 面接（詳細は後日通知）
 ▼申し込み 6月15日（金）までに生涯学習課・田原文化会館・渥美支所地域課にある履歴書に必要事項を記入のうえ提出



田原市生活学校 会員

省エネ対策やリサイクル活動、料理教室など、暮らしをよりよくするための活動、勉強会見学会などを行っています。

どなたでも入会できますので、興味のある方はお気軽にお問い合わせください。
 ▼対象 19歳以上の方向け
 ▼会費 年額1000円
 ▼商工観光課



☎23局3522 FAX22局3817

鳥羽伊良湖航路の 利用を促進する活動提案

鳥羽伊良湖航路（伊勢湾フェリー）の利用を促進するための効果的な取り組みを行う団体などに対して、経費を助成します。さらなる利用促進につながる活動提案を募集します。

▼対象団体 住民団体、NPO、企業など ▼対象事業 鳥羽伊良湖航路利用促進のために行う効果的な活動 ▼対象となる活動の実施期間 平成25年2月28日（木）まで ▼助成額 1事業につき上限20万円
 ▼募集期間 6月15日（金）まで ※必着 ▼申し込み 商工観光課で配布する申請書（鳥羽伊良湖航路活性化協議会ホームページからダウンロード可）などの書類に必要事項を記入し、商工観光課へ直接または郵送 ▼審査方法 書類審査により選考 ※詳しくはホームページをご覧ください。

●鳥羽伊良湖航路活性化協議会ホームページ
<http://www.city.toba.mie.jp/tobairago/tobairagokouro.htm>
 ▼商工観光課
 〒441-3492 住所不要
 ☎23局3522 FAX22局3817

環境月間県民のつどい

参加者

6月は「環境月間」です。愛知県では、県民の皆さんに環境についての関心を広め、環境保全の取り組みについての理解を深めていただくため、「県民のつどい」を開催します。

▼日時 6月11日（月）午後1時30分～ ▼会場 愛知県女性総合センター（ウイールあいち）（名古屋市区） ▼内容 環境保全関係功労者表彰式および講演「エジプト文明からみた地球環境」／講師：吉村作治氏（早稲田大学名誉教授・エジプト考古学者） ▼参加料 無料 ▼定員 800名（先着順） ※詳しくはお問い合わせください。

▼愛知県環境部環境活動推進課
 ☎（052）954局6208



●クールビズのお知らせ
 6月1日（金）から9月30日（日）までをクールビズの期間とし、職員は軽装で業務にあたります。ご理解をお願いします。

里親養育体験発表会 参加者

里親の体験発表および里親制度の説明を行います。里親制度について興味関心のある方は、ご参加ください。



- ▼対象＝一般 ▼定員＝80名程度 (申し込み不要) ▼参加費＝無料
- ▼日時＝6月14日(木) 午前10時30分～正午 ▼場所＝愛知県東三河総合庁舎 大会議室(2階) ▼その他＝託児あり
- ▼東三河児童・障害者相談センター (0532)54局6465

守ろう! 電波のルール

電波利用環境保護周知啓発強化期間
6月1日(金)から10日(日)まで

電波を使うには免許が必要です。
電波のルールを守りましょう。

▶総務省 東海総合通信局
不法無線局の相談は☎(052)971局9107
テレビ・ラジオの受信相談は☎(052)971局9648
▶http://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/

生活

ジェネリック医薬品をご存知ですか

ジェネリック医薬品とは

特許期間を経過した新薬と同じ有効成分を持つ薬として作られたもの

ジェネリック医薬品は、新薬より価格が低く設定されています。また、品質や安全性についても、薬事法の厳正な基準を満たしています。

詳しく知りたい方、薬をジェネリック医薬品に変更したい方は、かかりつけの医師や薬剤師にご相談ください。

▼保険年金課

☎23局2149 FAX23局0180

6月は特定健診・特定保健指導普及啓発強化月間です!

特定健診は、メタボリックシンドロームを予防するための健診です。対象の方には6月1日までに受診券が郵送されますので、早めに必ず受診しましょう。年に1度は健診を受け、自分の体は自分で守りましょう。

▼持ち物＝受診券、田原市国民健康

保険証または後期高齢者医療保険証

▼費用＝自己負担分は無料 ▼場所

＝市内指定医療機関 ▼期間＝12月

31日までの診療時間内 ▼その他＝

昭和12年5月～9月生まれの方に

は、誕生月の翌月末に受診券が届き

ます。

▼保険年金課

☎23局2149 (特定健診)

☎23局3514 (後期高齢者健診)

屋外スポーツ施設を夏更早期開放します

施設の有効活用および節電対策の一環として、一部の屋外スポーツ施設の早期開放を実施します。



▼開放施設＝テニスコート(中央・

滝頭公園・渥美運動公園) / 野球場

(滝頭公園・緑が浜・渥美運動公園)

/ 多目的広場(滝頭公園・緑が浜・

渥美運動公園・赤羽根文化広場)

▼開放期間 / 曜日＝6月15日(金)

～9月15日(土) / 原則、火～日曜

日 ▼開放時間＝午前6時～9時

▼使用料＝各施設の規定の使用料

▼申し込み＝各施設の窓口で直接申

し込み(施設予約システムは不可)

▼受付開始日＝6月1日(金)

▼生涯学習課(田原文化会館内)
☎22局6061 FAX22局6455

海洋環境保全推進月間
6月1日(金)～30日(土)

●未来に残そう青い海

●吸殻、釣り糸などを海にポイ捨て

しない

●弁当容器、空き缶などのごみは持

ち帰る

●使用しなくなったボートは放置せ

ず、適正に処分する

●海洋汚染も118番

海へのごみ投棄や海洋汚染、海で

の事件・事故を見かけたら、118

番通報をお願いします。

▼三河海上保安署

☎(0532)34局0118

FAX(0532)32局6699

生活

次の方々からご寄付をいただきました。ご厚意に感謝します。

ふるさと寄附金

▼4月9日、匿名希望の方から金

20万円。

▼4月18日、匿名希望の方から金

5万円。

歴史探訪

クラブ! 其の134

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

貝づくし渥美2

時は移り平安時代。都の貴族のロマンティックな歌に、渥美半島の貝が詠まれています。

● しらなみの いらごか崎のわすれ貝
人わするとも 我わすれめや
なぐさめに ひろへば袖ぞ ぬれまさる いらごか崎の わすれ貝
この歌に詠まれる「わすれ貝」は、薄紫の美しい色で古代から人々を魅了し、香を入れる容器にも使われました。現在でも、伊良湖をはじめと



▲表浜で拾ったワスレガイ

する表浜の海岸で拾うことができます。

また、平安時代の歌人の西行も「あこやとる いかひのからをつみおきて たからのあとを みするなりけり」と詠んでいます。これは、真珠を採るためのイガイの貝がらが積み重なった様子の歌ですが、本当に平安時代に真珠を採っていたのでしょうか。

江戸時代の地理書「参河の国名所図絵」には、渥美半島の産物に、アサリが記されています。そして、現在の豊橋市大崎町については、「串あさり 当所の名産なり」という記述があります。串あざりは、江戸時

代に田原へ来た渡辺華山も食べています。

他にも「石貝(忘貝)、胎貝鱈(保存のため塩と飯で熟成させた)」についても記されています。そして、昔は表浜で拾えたハマグリ(実際はチョウセンハマグリ)は白い基石に使用され、「伊良胡白と呼ばれ、那智黒と並び称された」と書かれています。

また、江戸時代の終わりには、安政の大地震の津波被害の対策として、貝がらで堤を築いた「貝がらぼた」(堀切町)など、貝の話題には事欠きません。

現在でも、記録に出てくる貝以外にも、タカラガイやサクラガイなどの心を奪われる美しい貝を海岸で拾うことができます。まさに渥美半島は貝に恵まれた半島です。それは、内湾、太平洋、干潟、岩礁、砂浜など、多様な海の環境に恵まれた日本でも稀にみる地勢のおかげなのです。

このように、私たちの食生活ばかりでなく、渥美半島の特産品として重要な位置を占めてきた貝。これらの資源の価値を認めてきた私たちの先輩に、感謝しなければなりません。しかし、何よりも感謝しなければな



▲「貝づくし渥美」リーフレット

らないのは、この豊富な貝をはぐくんできた渥美半島の自然です。

渥美半島と貝の

つながりの歴史を振り返り、改めて「貝づくし渥美」のリーフレットを見て、ますます貝のありがたさを感じられました。

※那智黒…三重県の熊野那智地方の海浜に産する光沢のある黒石で、基石などに加工された

(増山)

今月の「表紙」

▼田原市内でも数多く生産されているカーネーション。花言葉は、「母への愛」、ピンク色は「感謝」など、色によって異なるのだそうです。広報を編集して思うのは、読者の皆さんのこと。さまざまなご意見や情報をくださることへ、日ごろの「感謝」の気持ちを込めて(〇)

【表紙の写真】カーネーションの花束